

「あまり見かけない野鳥」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

北軽井沢の山荘に滞在していると、仕事がかどる。目の前に森が見えて、空気も良いからだろう。野鳥の鳴き声もよく聞こえる。



時々、その窓辺に野鳥が来ることがある。人なつこいヤマガラが一番多く、シジュウカラ、ヒガラ、コガラ、時にはアカゲラやキビタキもやってくる。しかし、今日現れたのは、今まで一度も見たことのない野鳥だった。(手前にあるのは、峠の釜飯容器の水差し)



羽色は地味で、一見「カワラヒワ」かと思った。カワラヒワも時々見かける野鳥だ。しかしカワラヒワは羽色ももっと緑がかっていて、くちばしの下の白い羽の特徴もちがう。こういう場合、勘が大切だ。私は体の形状から、オオルリのメスではないかと思い、時田先生(元我孫子市立鳥の博物館学芸員)に聞いてみた。時田先生は回答が素早い。すぐに「オオルリのメス成鳥」という回答があった。



オオルリ (オス) *Cyanoptila cyanomelana*

オオルリ(大瑠璃)は、スズメ目ヒタキ科の野鳥で、名の通り、鮮やかな瑠璃色をしている。しかし名の通り色鮮やかなのはオスだけで、メスはまるで別種の野鳥のように地味な羽色をしている。

オオルリは、冬季は東南アジアで越冬し、4月下旬から5月上旬に北に渡って、本州にもやってきて繁殖する「夏鳥」である。「草原と森林の境目」のような環境を好み、そこで飛んでいる昆虫を餌にする。私の山荘の周辺は、まさにぴったりの環境だ。



今日現れたオオルリのメス、あまり警戒心がなく、私がカメラを構えても、少し物音をたてても、まったく逃げる気配がない。一度飛び立っても、また同じ場所に戻ってくる。4回目は、部屋の中まで飛び込もうとして、ガラスにぶつかったほどだ。不思議なほど、人懐こい野鳥だった。